

協同の力で復興を!

仙台シンポジウム

10.8

10.8 SENDAI Symposium

10月8日(土) 午後1時~5時

仙台ベルエア会館5F 会議室

仙台市青葉区一番町1丁目4-3 (仙台駅中央西口より徒歩12分)

●電話 022(217)8622 **入場無料**

プログラム

- 第一部 挨拶
- 第二部 現場からの報告
- 第三部 討議とまとめ (今後の方向について)

発言者

- 大内秀明 (発起人代表。東北大学名誉教授)
- 木村 稔 (宮城県漁業協同組合前会長)
- 井上 肇 (生活クラブやまがた生協特別顧問)
- 山本伸司 (パルシステム生協連合会理事長)
- 岩佐國男 (JAみやぎ亙理代表理事組合長)
- 武 建一 (中小企業組合総合研究所共同代表)
- 鈴木照雄 (東西しらかわ農協代表理事組合長)
- 田中羊子 (日本労働者協同組合連合会専務理事)
- 山本 隆 (ピースボート共同代表) 他

10・8仙台「協同の力で復興を!」実行委員会

■仙台連絡先 「10・8仙台シンポジウム」準備事務局

TEL・FAX 022(721)3255

■東京連絡先 変革のアソシエ事務局

TEL 03(5342)1395 / FAX 03(6382)6538

mail associeforchange@mbn.nifty.com

10・8仙台シンポジウムへの呼びかけ

協同の力で復興を！

よびかけ（要旨）

巨大地震、大津波に原発危機が重なった複合厄災「3・11」から半年。

人々のくらしの根底とつながっていた仕事と地域社会が崩壊し、いまだ立ち上がれないままである。まさにいま、人々のくらしを持続させ、その基盤となる仕事を保障し、地域社会をその地域特性を踏まえて再構築することが、緊急な課題となっている。

「住宅」、「生活」、「仕事」、「産業復興」について、被災地現場が要求しているのは何か。これを的確に読み取り、それをいかに速やかに具体化するのかが、いま最も問われている。

その際、「復興基本法」に基づ

いた、結局は中央主導型でしかない政府の構想や、もっぱら経済効率・収益性に軸足を置いた「復興特区」を持ち上げ、それゆえに地域社会を台無しにしてしまふ宮城県の構想などと明確に次元の違う展望を示すこともとめられている。

具体的には、グローバルゼーションという大競争の渦に合流することになる「水産復興特区」や「TPP」のもつ地域破壊的本性を見抜かなければならない。わたしたちのめざしたいのは自然的・文化的環境を共有する地域社会にほかならない。自然エネルギーへの全面的転換も追求しよう。それはおのずと自然環境との調和・融合をはかる新しい産業を前面に押し出すものとなる。脱原発にもつながっていくと確信する。こうした試みが、

労働の場、生活の場における人々の連帯に基づいて行われる。それが協同の力にもとづく新しい地域社会創出にむけた第一歩となる。

わたしたちはこのような問題意識をもちつつ、「復興の先」をめざしたいと思う。それを近代日本において一貫して「周辺」に位置づけられてきた「東北」においてまず起動させたいと考える。

「協同の力で復興を！」仙台シンポジウムに結集されることを強く訴えたい。

2011年9月1日

発起人代表・大内秀明
(東北大学名誉教授)

呼びかけ人（順不同）

(9月10日現在)

- 大内秀明 (東北大学名誉教授)
- 金子 勝 (慶応義塾大学教授)
- 加藤好一 (生活クラブ生協連合会会長)
- 横田克己 (生活クラブ生協神奈川顧問)
- 山本伸司 (パルシステム生協連合会理事長)
- 下山 保 (元パルシステム生協連合会理事長)
- 武 建一 (中小企業組合総合研究所共同代表)
- 小田 要 (大阪兵庫生コン経営者会会長)
- 池田良太郎 (近畿生コン関連協組連合会理事長)
- 山本 隆 (ピースボート共同代表)
- 永戸祐三 (日本労働者協同組合連合会理事長)
- 鈴木照雄 (東西しらかわ農協代表理事組合長)
- 福岡莞爾 (元全国農協中央会常務理事)
- 丸山茂樹 (参加型システム研究所客員研究員)
- 半田正樹 (東北学院大学教授)
- 工藤昭彦 (東北大学教授・教養教育院)
- 田中史郎 (宮城学院女子大学教授)
- 遠藤保雄 (仙台大学教授)
- 樋口兼次 (白鷗大学教授)
- 由井 格 (社会運動資料センター)
- 尾形 憲 (仙台出身、法政大学名誉教授)
- 河村哲二 (法政大学教授)
- 大野和興 (脱WTO/FTA草の根キャンペーン事務局長)

労働・生活の場から新しい地域社会創出へ！

他。